

SHOWA UNIVERSITY NEWS

1

JAN. 2023

昭和大学新聞

通巻 第611号 (奇数月発行)

新年のご挨拶

キーパーソンに聞く

ヒト・iPS細胞から
唾液腺オルガノイドを作製



新年のご挨拶



令和五年



学校法人昭和大学 理事長

小口 勝司

新年おめでとうございます。

コロナ禍で迎える新春も4度目、今も各所で日本の医療を支え続けるみなさまに感謝と敬意を表します。

本年は、昭和大学の4病院間で遠隔集中治療管理システム（eICU）を接続し、更なる高度医療の提供が可能となります。また、新たに脳機能解析・デジタル医学研究所を開設し研究の充実を図ります。

本学は創立95周年を迎え、100周年へのマイルストーンとなります。新たな時代の教育・研究・診療活動の発展と構築に向けて、Cサイトならびに新キャンパス等の整備計画を推進して参ります。皆様には一層のご理解ご協力の程お願い申し上げます。

新しい年がより佳き年となりますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。



昭和大学 学長

久光 正

明けましておめでとうございます。

コロナ禍のなか、本学は学生の実習とくに病院での臨地実習を継続実施することを教育の大きな目標と定め努力して参りました。全職員、学生諸君のご協力により、実り多い実習を最大限継続することが出来ました。また、WEB配信を用いた学修方法にはいくつかの弱点を凌駕する多くの利点があることが明らかになりました。現在、各学部で実習とDXを駆使し、本学の医療教育の特徴である「チーム医療」「コミュニケーション能力」「プロフェッショナリズム」に重点を置いた教育を推進しています。

皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、年頭のご挨拶といたします。



Special Feature

新年のご挨拶

小口 勝司 理事長 久光 正 学長

Periscope キーパーソンに聞く

ヒトiPS細胞から唾液腺オルガノイドを作製
新型コロナウイルス感染確認で実用化に光

歯学部 口腔病態診断科学講座 口腔病理学部門
美島 健二 教授

Press Release

ヒトiPS細胞からの唾液腺オルガノイド作製
Nature Cell Biology誌の表紙を飾る

城南信用金庫との連携プログラム 第1弾
超音波画像診断の精度向上を目指し
ロボット開発企業との共同研究開発始める

ADHD(注意欠損・多動性障害)を特徴づける
脳深部の神経活動を瞳孔径計測から推計
千葉工業大学などとの共同研究に進展

News & Topics

解剖慰霊祭・JOCから感謝状・
ホームカミングデー・イルミネーション点灯式 ほか

Student Life

【旗ヶ岡祭・いぶき祭】

3年ぶりの対面開催に
学生・来場者の笑顔あふれる

【Cultural Exchange Day】

留学生とともに旗の台周辺の歴史と
日本文化を巡るツアーを開催

Database

令和4年度科学研究費
助成事業採択課題一覧

歯学部 薬学部

永年勤続者表彰

Meeting Report (学内会議報告)

Information

ヒトiPS細胞から 唾液腺オルガノイドを作製 新型コロナウイルス感染確認で実用化に光

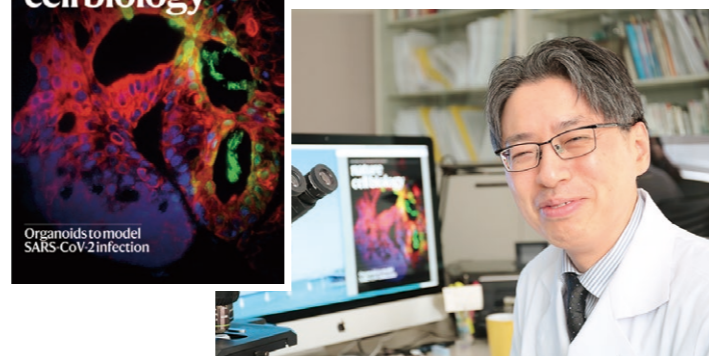
歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門の美島健二教授らの研究グループは、このほど世界で初めて唾液腺オルガノイドの作製に成功し、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)に曝露した唾液腺オルガノイドの感染細胞内でウイルスの複製を確認した。研究論文が「Nature Cell Biology」2022年11月号(Vol. 24 No. 11)に掲載され、ウイルスが唾液腺オルガノイドに感染する様子を捉えた蛍光画像が表紙を飾った。美島教授に研究の軌跡を振り返ってもらいながら、臨床実用化の可能性を展望してもらった。

——唾液腺オルガノイドの研究を始めたきっかけは。

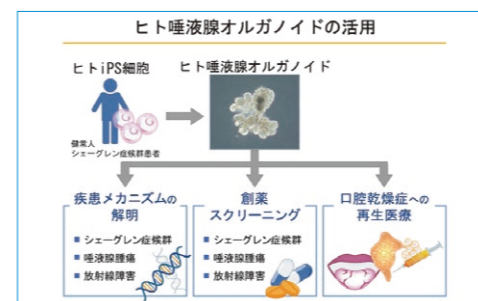
美島 私が卒業した徳島大学歯学部口腔病理学講座の林良夫前教授から「美島、ES細胞から唾液腺を作ってみよう」と言われたのがきっかけです。日本再生医療学会ができた2001年のことです。その前年まで留学していた米国国立衛生研究所(NIH)で唾液分泌障害の遺伝子治療の研究をしていました。やはりNIHに留学経験のある関西医科大学衛生・公衆衛生学講座の神田靖士准教授(当時、奈良県立医科大学所属)がES細胞の研究を開始したことを知りました。神田先生の誘いで、ES細胞の培養方法を修得するために関西医大に通いました。

その後、紆余曲折を経て、2018年にマウスのES細胞を使って唾液腺オルガノイドを3次元的に作製することに成功し、研究論文が「Nature Communications」に掲載されました。次の目標はヒト細胞由来のオルガノイドを作ることでした。そんなとき、海外の重篤な唾液分泌障害で苦しむシェーグレン症候群の患者さんから、新しい治療法を切望するEメールが届きました。そうした声を力にして、ヒト

■ 蛍光画像が表紙を飾ったNature Cell Biology誌(Vol. 24 No. 11) ■ 笑顔を見せる美島教授。取材は歯・口腔病理学教授室で(撮影時だけマスクを外してもらった)



【取材・構成】宇佐美 拓憲 【撮影】ダイヤモンド・グラフィック社



ヒト唾液腺オルガノイドの活用(プレスリリースより)

iPS細胞を使った3次元唾液腺オルガノイドの作製に成功しました。

——20年余の間には苦労も多かったと思いますが、何が転機となりましたか。

美島 暗闇の中を手探りで進み、いくつもの岐路に立ちました。特に、2次元培養では思うような組織が形成されなかったことが大きな障壁となりましたが、そんな状況を打破する技術革新がありました。オルガノイド研究の先駆者だった故笹井芳樹氏(1962-2014)によってES細胞を使った3次元培養法が確立されたのです。その研究論文を読んで「これだ」と閃き、18年と今回の研究論文の筆頭著者である田中準一講師(現在、ニューヨーク大学に留学中)にその技術を応用することを提案しました。

試行錯誤の末、唾液腺オルガノイドの形成に必要な因子(Sox9、Foxc1)を同定し、ゴールが見えました。ただ、口腔粘膜上皮組織に遺伝子を導入するのにアデノウイルスを使っていたため、ヒトへの応用については、免疫原性など、いくつかの問題を解決する必要がありました。結局、唾液腺の分化の鍵を握る成長因子FGF7、FGF10を使うことで活路が開けました。

——臨床での実用が現実味を帯びてきました。

美島 近年、ES細胞やiPS細胞などの多能性幹細胞からさまざまな臓器のオルガノイドを誘導する方法が開発されていますが、唾液腺をはじめ外分泌腺オルガノイドの誘導法は確立されていませんでした。マウス唾液腺オルガノイドに続いて、ヒト唾液腺オルガノイドの作製も世界で初めての報告となりましたが、ヒト由来であることから臨床応用に直結する極めて重要な成果といえます。



MISHIMA Kenji/1991年、徳島大学 歯学部卒業。1995年、奈良県立医科大学 大学院医学研究科修了。医学博士。米国国立衛生研究所(NIH)国立歯学・頭蓋顔面研究所(NIDCR)ポスドク研究員、鶴見大学歯学部准教授などを経て、2011年より現職

唾液腺オルガノイドは、再生医療、創薬、疾患モデルなどの有用なツールになることが期待されます。実際、今回の研究で唾液腺における新型コロナウイルスの感染と複製を試験管内でモデル化することに成功し、唾液腺がウイルスのリザーバーとなり、唾液とともにウイルスが排出される可能性が示唆されました。無症候感染者がいわゆるスーパースプレッダーとして感染拡大の原因となっている構図が浮かび上がってきました。

——次の目標に到達するために取り組むべき課題は。

美島 オルガノイドの大きさはわずか0.5mm程度で、ヒトへの移植にはさらに大きなオルガノイドの作製方法や大量培養法を確立する必要があります。

わが国の唾液分泌低下による口腔乾燥症(ドライマウス)患者は約800万人から3000万人と推定されています。特に、シェーグレン症候群や、頭頸部癌で放射線照射を受けた患者さんでは重篤な唾液分泌障害が認められ、著しいQOL(生活の質)の低下をもたらすことが知られています。こうした患者さんの、新たな診断法や治療法の開発に役立つよう、今後も研究を続けていきます。

プレスリリース本文については、次ページをご参照ください





Press Release

昭和大学では最新の研究結果を外部（マスメディア）に発信しています。
ここでは、プレスリリースとして発信した記事をご紹介します。

ヒトiPS細胞から唾液腺オルガノイド作製 Nature Cell Biology誌の表紙を飾る



昭和大学（東京都品川区、学長：久光正）歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門の田中準一講師、美島健二教授、国立感染症研究所の泉福英信室長（現：日本大学松戸歯学部教授）と鶴見大学歯学部病理学講座の齋藤一郎教授（現：株式会社クレインサイエンス代表）らを中心とした共同研究グループは、ヒトiPS細胞から唾液腺オルガノイドの作製に成功した。今回得られた唾液腺オルガノイドは、唾液腺分泌障害に対する再生医療や唾液腺疾患解析、創薬スクリーニングの有用なツールとなることが期待される。本成果は英国の科学雑誌『Nature Cell Biology』10月17日付（日本時間10月18日）に掲載された。

昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門の田中準一講師、美島健二教授、国立感染症研究所の泉福英信室長（現：日本大学松戸歯学部教授）と鶴見大学歯学部病理学講座の齋藤一郎教授（現：株式会社クレインサイエンス代表）らを中心とした共同研究グループは、ヒトiPS細胞から唾液腺オルガノイドの作製に成功した。本研究成果は、これまで昭和大学を中心とした研究グループがマウスES細胞より作出した唾液腺オルガノイド（Nat Commun. 2018）に引き続いて行われた世界に先駆けた成果となる。

唾液腺は口腔内に唾液を分泌する組織。唾液は消化作用、抗菌作用および口腔粘膜の保護作用などを有し、口腔内環境の維持に重要な役割を果たしている。近年、唾液分泌低下による口腔乾燥症患者の増加が指摘され、症状の重篤な場合には、著しいQOL（Quality Of Life）の低下をもたらすことが懸念されている。

共同研究グループは、ヒトiPS細胞から誘導した口腔粘膜上皮から唾液腺の分化過程を段階的に再現し、三次元的な唾液腺器官の再生に成功した。今回、iPS細胞から誘導した唾液腺原基（唾液腺オルガノイド）は、形態学的な特徴や遺伝子発現解析からもヒト胎生期の唾液腺原基に類似していた。また、大唾液腺の1つである耳下腺を摘出した免疫不全マウスに、唾液腺オルガノイドを同所性移植することにより、移植したオルガノイドの導管と残存唾液腺の導管が接続することが確認された。

今回得られた唾液腺オルガノイドは、唾液腺発生メカニズムの解析はもとより、唾液分泌障害に対する再生医療や唾液腺疾患解析、創薬スクリーニングの有用なツールとなることが期待される。本成果は英国の科学雑誌『Nature Cell Biology』に10月17日付（日本時間10月18日）に掲載された。

リリース時タイトル／ヒトiPS細胞から唾液腺オルガノイドの作製に成功 -- 口腔乾燥症の治療や唾液腺疾患モデルへの応用に期待

掲載誌／Nature Cell biology (impact factor 2021-2022: 28.824)

論文名／Human induced pluripotent stem cell-derived salivary gland organoids model SARS-CoV-2 infection and replication

著者／Junichi Tanaka*, Hidenobu Senpuku, Miho Ogawa, Rika Yasuhara, Shintaro Ohnuma, Koki Takamatsu, Takashi Watanabe, Yo Mabuchi, Shiro Nakamura, Shoko Ishida, Tomohiko Sadaoka, Takashi Takaki, Tatsuo Shirota, Toshikazu Shimane, Tomio Inoue, Takayoshi Sakai, Munemasa Mori, Takashi Tsuji, Ichiro Saito, and Kenji Mishima 1*.
(*corresponding author)

DOI／https://www.nature.com/articles/s41556-022-01007-6

城南信用金庫との連携プログラム 第1弾 超音波画像診断の精度向上を目指し ロボット開発企業との共同研究開発を始める



学校法人昭和大学（東京都品川区／理事長：小口勝司）が城南信用金庫^{※1}と締結した「産学金連携プログラム」の取り組みとして、昭和大学保健医療学部の中宅英司講師と株式会社小川優機製作所^{※2}が、超音波画像診断の精度向上を図るためのガイド装置の共同研究開発を行うこととなった。

医療や介護の現場で使われている医療機器や用品は、患者の命にかかわる重要なものだが、医療に携わる方々のニーズに必ずしも合致しておらず、新たな開発や改良が求められている。

そこで、昭和大学は医療機器等の開発、改良についての要望に対応できる優れた技術を持った中小企業を城南信用金庫から

紹介していただき、大学と中小企業の共同開発を通じて具体的な商品化を実現する「産学金連携プログラム」を実施している。
リハビリテーションの臨床現場で行われる柔軟性等筋肉の評価



共同研究契約締結時の写真（左から、城南信用金庫 理事長 川本 恭治、学校法人昭和大学 副学長 木内 祐二、株式会社小川優機製作所 代表取締役会長 小川 安一、株式会社小川優機製作所 代表取締役社長 小川 社一、昭和大学 保健医療学部 講師 三宅 英司、学校法人昭和大学 統括研究推進センター長 三邊 武彦）

については、これまで触診等による定性的な評価にとどまっていたが、近年は超音波画像診断装置を活用した定量的な評価が取り入れられ始めている。

今回は、超音波画像診断の精度向上を図るためのガイド装置の開発という課題に対し、城南信用金庫よりロボットの開発を手掛ける株式会社小川優機製作所の紹介を受けた。

同社の強みであるロボット開発技術を活かしたロボットアーム型のガイド装置の提案を受け、同社と共同研究開発を行う運びとなった。

今後、昭和大学にて臨床試験を行い、実用化をすすめていく。

リリース時タイトル／超音波画像診断の精度向上を図るため大学と中小企業が連携 -- 実用化に向けて共同研究開発がスタート

注釈／

- ※1 城南信用金庫：本店 東京都品川区、理事長 川本恭治。
- ※2 株式会社小川優機製作所：本社 神奈川県横浜市、代表取締役社長 小川社一。生産設備機器類の改修・改善の企画提案、電子部品生産、各種機器の設計製図から研究開発、受託生産。

ADHD（注意欠損・多動性障害）を特徴づける 脳深部の神経活動を瞳孔径計測から推計 千葉工業大学などとの共同研究に進展



千葉工業大学大学院情報科学研究科博士前期過程1年 熊野開、同大学院教授／国立精神・神経医療研究センター（NCNP）精神保健研究所児童・予防精神医学研究部客員研究員 信川創および、NCNP児童・予防精神医学研究部 児童・青年期精神保健研究室長 白間綾、福井大学学術研究院医学系部門客員准教授／金沢大学子どものこころの発達研究センター協力研究員／魚津神経サナトリウム副院長 高橋哲也、金沢大学医薬保健研究域医学系教授 菊川充、昭和大学医学部精神医学講座准教授 戸田重誠（他4名）は、注意欠損・多動性障害（Attention Deficit Hyperactivity Disorder：以下、ADHD）患者の左右の瞳孔径時系列に対する時間的な複雑さの解析と瞳孔径制御の神経経路モデルによるシミュレーションを駆使することで、ADHDを特徴づける青斑核（Locus Coeruleus：以下LC）活動に関するパラメータ領域の特定に成功した。

これにより、非侵襲で容易に利用できるアイトラッカーなどのデバイスから計測された瞳孔径時系列の情報から、ADHDを特徴づける脳深部に位置するLCの左右非均衡の程度が推定できる。本研究でのアプローチは、現在の問診を主体としたADHD診断をサポートする生物学的指標の確立に寄与するものと期待される。

この研究成果は、2022年10月14日に、「Neural Computation」オンライン版に掲載された。

■研究の背景

ADHDは、不注意、衝動性、多動性を特徴とする神経発達障害のことで（図1）、患者の生活に深刻な心的・社会的影響を及ぼ

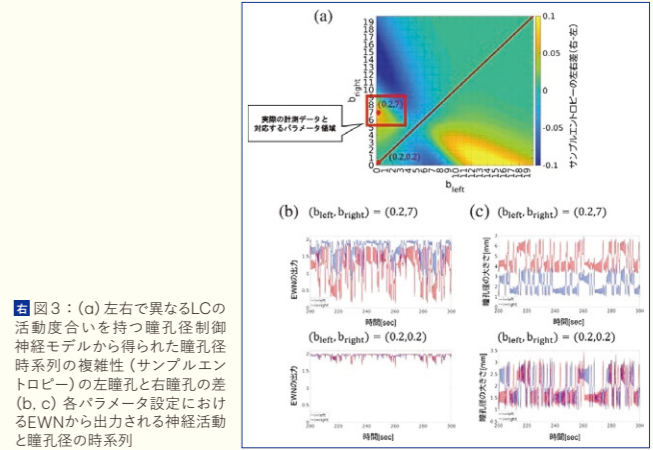
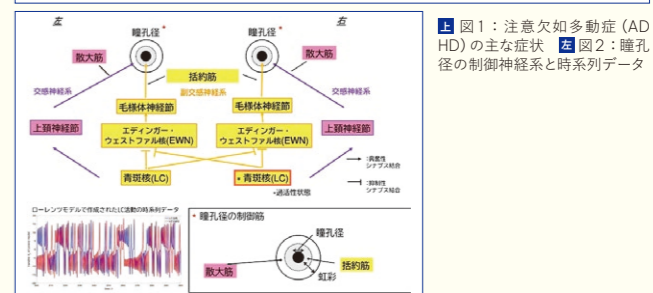
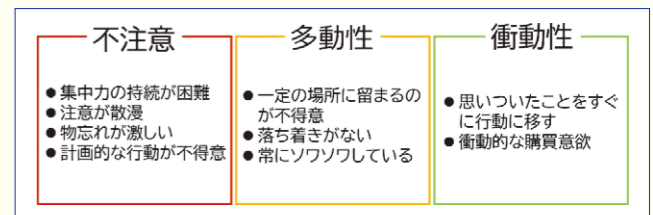


図3 (a) 左右で異なるLCの活動度合いを持つ瞳孔径制御神経モデルから得られた瞳孔径時系列の複雑性（サンプルエントロピー）の左瞳孔と右瞳孔の差 (b, c) 各パラメータ設定におけるEWNから出力される神経活動と瞳孔径の時系列

すことから、早期診断とそれに続く早期介入が重要となる。

現在のADHDの診断は、主に医療機関での問診に基づいて行われており、それに加えて客観的で定量的な生物学的指標の実現が期待されている。その実現のために、費用対効果が高く、非侵襲的なニューロイメージングの一つである瞳孔径計測をADHDの診断補助のツールに利用しようとする試みが進められている。

ADHDの代表的な特徴として、注意・覚醒の調整機能を担うLCの過活性、特に右側のLCの過活性が報告されている。加えて、このLCは瞳孔径の交感神経と副交感神経の神経経路の起点になっている。近年の研究では、自律的な瞳孔径の変化（時系列の挙動に含まれるゆらぎ）は、ADHDに関連する注意・覚醒機能障害に関わる神経活動を反映することが明らかになってきた。しかし瞳孔径を制御する神経系は、交感神経と副交感神経の2重支配を受けるなど単純ではなく（図2）、瞳孔径挙動は神経経路の変調の影響を大きく受ける。つまりADHDに見られる右側LCの過活性がどのように瞳孔径挙動に反映されるかは、未だに明らかになっていなかった。

一方、これまでに私たちは定型発達の子どもの瞳孔径挙動と神経経路の関係性を明らかにするため、瞳孔径を制御する神経系の計算モデルを提案した。本モデルには、近年の研究で新たに発見されたLCからEWN（Edinger-Westphal Nucleus）への対側投射⁽¹⁾が含まれる⁽²⁾。また、私たちのADHDの瞳孔径時系列データを解析した研究では、ADHDにおいては瞳孔径時系列の複雑性と対称性の低下が報告されていた⁽³⁾。

■研究の概要

本研究で私たちは、これまでに構築した最新の瞳孔径制御の神経経路の機構を組み込んだ神経経路モデル⁽²⁾を用い、ADHDの特性である右側LCの過活動状態をシミュレーションによって再現し、得られた自律的な右と左の瞳孔径の時系列の複雑性を比較した。また、ADHD成人患者において実験的に測定された自律的な瞳孔径時系列に対しても同様に、右と左の瞳孔径の時系列の複雑性を比較した。その結果、ADHDの成人患者は右の瞳孔径の複雑性が左の瞳孔径の複雑性よりも相対的に高いことが明らかになった。神経経路モデルのシミュレーションからは、右側のLCの過活性は右側の相対的に高い複雑性を誘起することもあれば、逆に低い複雑性を誘起することもありえると明らかにされた（図3）。今回の瞳孔径制御の神経系モデルによるシミュレーションと実データの解析を照らし合わせることで、実際の瞳孔径計測だけでは把握できないADHDの特徴づける左右のLC活動の非均衡の程度が特定された（図3(a)の赤枠部分を参照）。

■今後の展望

脳深部に位置するLCは、臨床で広く用いられるニューロイメージングである頭皮上の脳波によってその活動を計測することは困難である。また、数Hz以上の周波数成分を持つ神経活動がふくまれるため、神経活動に起因する血流量を計測する脳機能核磁気共鳴（functional magnetic resonance imaging）を用いても、その複雑性を評価することは難しい。本研究では、瞳孔径時系列データから、たとえ神経経路の複雑な変調の影響を受けても、

神経モデルによるシミュレーションを駆使することで、ADHDの特徴であるLCの非均衡の程度が推定できることを示した。アイトラッカーなどによる瞳孔径計測は、非侵襲で容易に実施できる高い臨床的汎用性を持つニューロイメージング法である。今後のモデルの精密化と複雑性の特徴量抽出の洗練化をさらに進めることで、本研究でのアプローチが、現在の問診を主体としたADHD診断をサポートする生物学的指標の確立に寄与すると期待される。

リリース時タイトル／【昭和大学、千葉工業大学、福井大学、金沢大学】千葉工業大学、瞳孔径制御の神経経路モデルと瞳孔径時系列データからADHDの神経活動の特徴推定を可能にするアプローチを提案～瞳孔径制御の神経系を記述した数理モデルと実データ解析の融合により実現

用語の説明

- ※1 複雑性：多くの要素が自律的に動作し、且つ要素間の相互作用によって、単一の要素では保持し得ない全体として新しいレベルでの機能が創発するシステムのことを複雑系と呼ぶ。特に、脳は単一の要素であるニューロン（神経細胞）が1000億個以上相互に結合した複雑系の最たるシステムと言える。そしてこのような複雑系の特徴を示すのが複雑性であり、脳における情報処理はこの複雑性を最適な程度に調整することで、多様で柔軟な脳機能が実現されている。一方、神経活動時系列における複雑性の低下は、さまざまな精神疾患（うつ、統合失調症、アルツハイマー型認知症等）と関連づけられる⁽⁴⁾。
- ※2 サンプルエントロピー：脳波等の複雑な振る舞いをする生体時系列データにおける複雑性を定量化するために考案された非線形時系列解析手法において用いられる値。本研究では瞳孔径の時系列的複雑性を定量化するのに使われた。

研究経費／本研究はJoint Usage/Research Program of Medical Institute of Developmental Disabilities Research, 昭和大学、日本学術振興会 科研費【研究活動スタート支援（研究課題／領域番号 19K23395）、基盤研究C（20K03490）（研究代表者 白間綾）】、【基盤研究C（研究課題／領域番号 17K10270、20K07928）（研究代表者 戸田重誠）】の助成を受けた。

掲載誌／Neural Computation

論文名／Asymmetric Complexity in a Pupil Control Model with Laterally Imbalanced Neural Activity in the Locus Coeruleus: A Potential Biomarker for Attention-deficit/Hyperactivity Disorder（公開日：10月14日）

著者／Hiraku Kumano, Sou Nobukawa, Aya Shirama, Tetsuya Takahashi, Toshinobu Takeda, Haruhisa Ohta, Mitsuru Kikuchi, Akira Iwanami, Nobumasa Kato, Shigenobu Toda

URL／https://direct.mit.edu/neco/article-abstract/doi/10.1162/neco_a_01545/113356/Asymmetric-Complexity-in-a-Pupil-Control-Model?redirectedFrom=fulltext

DOI／https://doi.org/10.1162/neco_a_01545

引用文献

- 1) Liu, Y., Rodenkirch, C., Moskowitz, N., Schriver, B., & Wang, Q. (2017). Dynamic lateralization of pupil dilation evoked by locus coeruleus activation results from sympathetic, not parasympathetic, contributions. *Cell reports*, 20 (13), 3099-3112.
- 2) Nobukawa, S., Shirama, A., Takahashi, T., Takeda, T., Ohta, H., Kikuchi, M., ... & Toda, S. (2021). Pupilometric Complexity and Symmetry Follow Inverted-U Curves Against Baseline Diameter Due to Crossed Locus Coeruleus Projections to the Edinger-Westphal Nucleus. *Frontiers in Physiology*, 12, 92.
- 3) Nobukawa, S., Shirama, A., Takahashi, T., Takeda, T., Ohta, H., Kikuchi, M., ... & Toda, S. (2021). Identification of attention-deficit hyperactivity disorder based on the complexity and symmetry of pupil diameter. *Scientific Reports*, 11(1), 1-14.
- 4) Ando, M., Nobukawa, S., Kikuchi, M., & Takahashi, T. (2021). Identification of electroencephalogram signals in Alzheimer's disease by multifractal and multiscale entropy analysis. *Frontiers in Neuroscience*, 772.

News & Topics

2022.9.30-10.31

学生生活 保護者

「昭和大学父兄会秋季部会」WEB開催 学部別の全体会や保護者との個別面談を実施

令和4年度昭和大学父兄会秋季部会が4学部および富士吉田教育部でそれぞれWEB開催された。同部会では学部別の全体会や指導担任との個別面談が行われた。前年度国家試験の総評や卒業・進級における教育方針および取り組みに関し、担当の教育職員より現況の説明があった。保護者との個別面談は電話やビデオ通話等により実施され、学生生活をはじめとする不安や相談について、指導担任が対応を行った。



2022.10.18

式典・行事

「令和4年度解剖慰霊祭」 医療向上のためにご献体された故人の遺徳を偲ぶ

10月18日、令和4年度解剖慰霊祭を上條記念館にてしめやかに執り行った。

今年度も新型コロナウイルス感染防止のため、必要な措置を講じたうえで一部の教育職員と学生代表のみが参列した。

解剖慰霊祭は医療の進歩のため、ご献体された故人の遺徳を偲び感謝する式典。

令和3年4月1日から令和4年3月31日までにご献体いただいた110柱の霊位が祀られ、参列者からご尊霊に対し、黙祷が捧げられた。その後、参列者全員が祭壇に献花を行い、ご冥福をお祈りした。

式典では、小川高史准教授（藤が丘病院臨床病理診断科）が「医学教育と医療の発展のために解剖を承諾され、御遺体を供して崇高なご意志を示された諸霊に感謝いたします。今後も医学、歯学、薬学、保健医療学の向上と社会福祉に寄与するために努力を重ねることをお誓い申し上げます」と祭文を捧げた。

また、医学部と歯学部の学生代表が「現在の医学を将来に向けて推し進めていく力となるべく、御身体をご提供くださることを決意された、その尊いお気持ち。それに恥じることはないよう、全力で励んだ解剖実習。多くの課題に直面しながらも、友と研鑽し、学びを深めた密度の濃い日々でした。何より、昭和大学の教育理念である『至誠一貫』社会に役立つ優れた医療人を目指すという自覚が、大きく確実に心の中で芽生えました。ご献体くださった皆様の崇高な魂は、私達をあたたく包み込み、私達の心の中で、永遠に生き続けます」と弔辞を述べた。



1 祭文を捧げる小川高史准教授 2 弔辞を述べる医学部学生代表 3 黙祷を捧げる参列者一同 4 献花の様子

「第15回ホームカミングデー」 卒業後50年、25年、15年の 卒業生を招待

同日開催の旗ヶ岡祭も満喫

10月9日、第15回昭和大学ホームカミングデーを上條記念館で開催した。

開式にあたり、昭和大学管弦楽団の演奏が行われ、華やかなスタートとなった。

今年の招待学年は、ゴールデン記念表彰（卒業後50年）となる医学部40回生、薬学部3回生の方々、シルバー記念表彰（卒業後25年）となる医学部65回生、歯学部15回生、薬学部28回生の方々、そしてブロンズ記念表彰（卒業後15年）となる保健医療学部7回生の方々。

久光正学長による各招待学年代表者への表彰楯贈呈のほか、招待学年代表者による挨拶や昭和大学宣言、グリーククラブによる校歌斉唱が行われ、最後は応援指導部の演奏で閉式となった。

ホームカミングデーに参加された同窓生からは「久しぶりにみんなに会えてよかった」「楽しい時間だった」などの声が聞かれた。



1 表彰 2 会場の様子 3 昭和大学管弦楽団による演奏

閉会後は参加者の多くがそのまま母校へ立ち寄り、同日開催されている旗ヶ岡祭で学生と談笑したり模擬店を巡ったりするなど、現役学生との交流を楽しんでいた。

日本心理学会「国際賞奨励賞」を受賞 「神経疾患における認知機能の解明」 長年の研究・成果を評価される

本間元康講師（医学部生理学講座生体調節機能学部門）が日本心理学会第17回国際賞奨励賞を受賞した。日本心理学会では、日本の心理学の国際化を促進するために国際賞を設けており、奨励賞は国際的に優れた業績を持つ中堅・若手心理学者に対して授与されるもの。本間講師は神経疾患における認知機能を長年研究し、一連の成果からこのたびの受賞となった。9月10日に開催された日本心理学会第86回大会にて授賞式が行われ、翌11日に受賞記念講演が行われた。



本間元康講師

【本間元康講師のコメント】

この度は大変名誉ある国際賞奨励賞を賜り光栄に存じます。私のバックグラウンドは心理学ですが、現在は医学と心理学の垣根を超えた学際的研究に従事しております。昭和大学においては臨床医の先生方との共同研究に恵まれ、特に神経疾患における認

知機能の解明に尽力してきました。長年の取り組みを評価して頂いたと受け取り、大変感慨深いです。未知の認知機能障害の発見やそのメカニズムの解明が患者さんの治療やリハビリテーションに結び付くと信じ、今後も学際性の視点を持って医療研究に貢献して参りたいと思います。



昭和大学広報担当は日々のお知らせや大学キャンパス、各附属病院のイベント情報などをTwitter、Instagramで発信中です。凛々しく研鑽に励む学生・職員の皆さんの姿や四季折々のキャンパス風景など、明るく元気にお伝えしていきますので、ぜひ昭和大学の「いいね!」な出来事と一緒に楽しみたいと思います。



Twitter



Instagram

SHOWAUNIV.PRESS

日本診療放射線技師会「社会貢献賞」を受賞 社会活動カウントの上位取得者のうち 特に優れているとして評価される

加藤京一教授（大学院保健医療学研究科（診療放射線領域））が第38回日本診療放射線技師会学術大会（9月16日～18日：神戸コンベンションセンターおよびWEBのハイブリッド開催）において社会貢献賞（江間賞）を受賞した。同学会は、日常業務に直結した学術研究の場として、また、常に医療の原点である「患者様への思いやり」を再認識する場として、1985年より開催される公益社団法人日本診療放射線技師会が主催する学会。加藤教授は学会中、9月17日に開催された日放シンポジウム（STAT画像報告委員会）において「STAT画像報告の新しいステージ」のテーマで座長も務めた。



加藤京一教授

【加藤京一教授のコメント】

このたび、本学会において社会貢献賞（江間賞）を受賞することができました。この賞は、前年度の社会貢献カウント上位者の中で、社会活動の内容が優れている者に授与される賞であります。

今回は、全国から8名が選出され、そのなかの一人として評価いただいたことは大変に光栄なことであると思っております。

これもひとえに、昭和大学の建学の理念である至誠一貫の教えのもと、昭和大学関係者の皆様のご支援の賜物であると、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も、放射線領域のみならず、社会に少しでも貢献できるよう、さらに研鑽を積んでいく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

日本認知症予防学会学術集会 「浦上賞」を受賞

「大脳白質病変と脳血流が脳の認知機能に与える影響」が評価される

黒田岳志講師（医学部内科学講座 脳神経内科学部門）が第11回日本認知症予防学会学術集会（9月23日～25日：福岡国際会議場およびWEBのハイブリッド開催）において「浦上賞」を受賞した。同学会は、認知症予防のためのエビデンス創出とそれに基づいた実践活動、認知症予防のための人材育成、多職種協働・地域連携を3本柱とし、その成果の社会還元ならびに「認知症予防」の普及啓発を目的として2011年4月に設立された。鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座の浦上克哉教授が代表理事を務め、本学術集会では一般演題発表の中から特に優秀な演題に「浦上賞」が授与される。黒田講師は演題名「認知症早期において大脳白質病変と脳血流が認知機能に与える影響についての検討」が高く評価され、同賞に選出された。



(左)村上秀友教授 (右)黒田岳志講師

【黒田岳志講師のコメント】

このたび、私が注力している認知症および認知症予防の分野でこのような素晴らしい賞を頂くことができ、大変光栄です。社会の高齢化とともに認知症人口は今後も増加していくことが予想されますが、認知症の治療薬は未だ実用化されていません。一方、1次・2次予防への関心が近年高まっており、認知症の危険因子

を把握し管理することで、認知症になる確率を下げ、発症時期を遅らせることが可能だと知られています。本研究は認知症の早期段階における大脳白質病変・脳血流・認知機能の関係性に注目したもので、その関連性を明らかにすることは、認知症の早期段階において大脳白質病変や脳血流が認知機能に影響を与えるメカニズムを解明する一端となり、認知症予防医学の発展や新規治療薬の開発に貢献できるのではないかと考えています。本研究をご指導頂きました脳神経内科学部門の村上秀友教授、金沢大学脳神経内科の小野賢二郎教授、並びに研究にご協力頂きました先生方には心より御礼申し上げます。今後も、臨床・研究を両立し、医学に貢献して参りたいと思います。

「パラコート誘発性肺障害の発現機構解析」の発表 実行委員長賞を受賞

日本薬学会の学術年会 フォーラム2022

富塚祐希さん(薬学研究科衛生薬学3年)が、フォーラム2022:衛生薬学・環境トキシコロジー(8月30日~31日:熊本城ホール)で、実行委員長賞を受賞した。同フォーラムは、日本薬学会の環境・衛生部会による学術年会であり、疾病予防や健康維持・増進に関する学術・研究の推進に目標を置き、関連する基礎および応用分野の研究者の研究発表、知織の交換ならびに研究者の連携の場を提供することを目的とした同部会の活動の一つ。富塚さんは演題名「長鎖アシルCoA合成酵素(ACSL)4の欠損がパラコート誘発性肺障害に及ぼす影響の解析」の発表が評価され、同賞に選定された。

【富塚祐希さんのコメント】

今回、細胞膜リン脂質のリモデリング反応を担う長鎖アシルCoA合成酵素4という酵素に着目し、パラコート曝露による肺障



1 表彰される富塚祐希さん 2 中央が富塚祐希さん、左端が原俊太郎教授、右端が三隅将吾フォーラム2022実行委員長

害の発現機構の解析から、副作用として肺炎等を引き起こすことが問題となっている医薬品に対する新規副作用軽減法の可能性について報告しました。毒性発現機構の標的として脂質分子に注目し、当研究室が強みとする質量分析装置を用いた脂質の分析を中心に研究を進めてきましたが、今回このような形で評価していただき大変嬉しく思います。研究発表を行うにあたりご指導を賜り、ご助言をいただきました衛生薬学部門の原俊太郎教授、桑田浩准教授をはじめ先生方に心より感謝申し上げます。

旗の台校舎・昭和大学7号館(50年記念館)で「避難訓練」実施 地震・火災に対する避難・初期消火の段取りを確認

10月27日に昭和大学7号館(50年記念館)において、12月2日に昭和大学旗の台校舎において避難訓練を実施した。

東京湾を震源として首都直下型の震度6強の地震発生に伴い、館内で火災が発生した場合を想定。

参加者は緊急地震速報をきっかけに、倒れてくるものから離れる等、身を守る行動をとった。その最中に館内放送で火災の発生が周知され、同時に避難指示が出されると、避難場所へ向けて一斉に避難を開始した。避難完了後、火元責任者が災害対策本部へ報告し、被害状況を把握する際の段取りを確認。

7号館訓練においてはエア消火器による初期消火訓練、屋内消火栓の操作方法の確認を行った。

終了後には、災害対策本部構成員が今回の訓練の振り返りを行い、避難行動の精度向上のために解決すべき課題を共有し、すみやかに対処することを共通認識した。



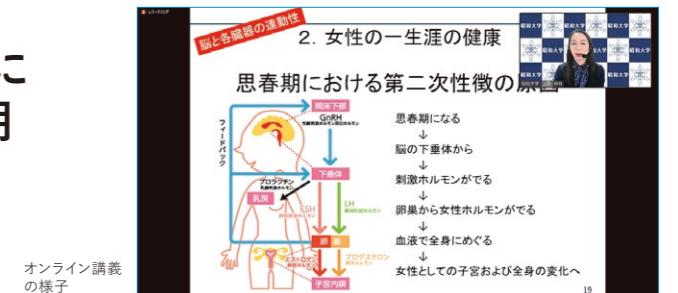
1 カラーコーンを火元に見立てて初期消火訓練(50年記念館) 2 災害対策本部への状況報告(旗の台校舎) 3 避難場所(旗の台校舎)

特別協定校の生徒に向けオンライン講義 医療に興味ある約50名の中高生に性機能や婦人科系疾患などを説明

9月27日(火)、助産学専攻科・保健医療学部看護学科の上田邦枝教授が、本学の特別協定校である昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校の生徒を対象に、「女性の性機能や月経のしくみ〜子宮頸がんの予防〜」というテーマでオンライン講義を行った。

この講義は医療に興味のある約50名の生徒を対象に、「思春期の女性の身体のしくみ」、「女性の一生の健康」、「受精・妊娠のしくみ」、「月経に関する悩み」、「子宮頸がんについて」各テーマについて、実際の画像やイラストを取り入れながら中高生にも分かりやすく説明された。

特に子宮頸がん検診の重要性やHPVワクチンの具体的な接種



オンライン講義の様子

方法などの子宮頸がんの予防方法について、真剣な面持ちで受講していた。

講義後、生徒からHPVワクチンに関する多くの質問が寄せられたことから、子宮頸がん予防への関心が高まった様子がうかがえた。

今後も両校は様々な相互交流を通じて、高大連携を強めていく。

「女子アイスホッケー 日本代表(スマイルジャパン)の支援」 JOCから感謝状贈呈 ミラノ2026冬季五輪での活躍に期待

10月13日、公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)より学校法人昭和大学へ感謝状が贈呈された。

これは本学が女子アイスホッケー日本代表(スマイルジャパン)監督の飯塚祐司、選手の獅子内美帆、藤本もえこの3名を採用している企業として、監督・選手を支援したことによるもの。

3名は日本代表として2022年北京冬季五輪に出場、日本アイ



1 (左)藤本もえさん(右)獅子内美帆さん 2 日本オリンピック委員会(JOC)からの感謝状

スホッケー女子初となる五輪6位入賞に貢献した。

2026年ミラノ冬季五輪で更なる活躍ができるよう、より一層の支援をしていく。

各キャンパスで学内イルミネーション点灯 年末のクリスマス気分を添える

11月24日、旗の台キャンパスでイルミネーション点灯式を行った。今年もコロナ禍のため感染対策を講じた上での開催となった。学生代表3名がカウントダウンに合わせて点灯スイッチを押すと、中庭を包み込むようにイルミネーションが一斉に輝き、集まった人々から歓声が上がった。

旗の台キャンパスのほか、11月25日に富士吉田キャンパス、12月1日に横浜キャンパスでもそれぞれ点灯式を行った。今年も趣向を凝らしたイルミネーションが用意されているので、ぜひ、三密を避けてお楽しみいただきたい。



1 旗の台キャンパス 2 点灯した瞬間(旗の台キャンパス) 3 富士吉田キャンパス 4 横浜キャンパス

旗ヶ岡祭



旗ヶ岡祭・いぶき祭 (2022/10/8~9) 3年ぶりの対面開催に 学生・来場者の笑顔あふれる

10月8日・9日の2日間、第62回旗ヶ岡祭（大学祭）を3年ぶりの対面形式として、旗の台キャンパスで開催した。同大学祭は学生で構成される実行委員会によって開催され、「Heart to heart」をテーマにステージ企画や模擬店、展示などさまざまなプログラムで盛り上がった。

開会式ではダンス部や応援指導部によるパフォーマンスのほか、チューデント・インストラクターの活動に積極的に参加した学生の表彰も行われた。このほか、キッズ緑日や名人会（落語）、バザーなどの各催しには、近隣から多くの方にご来場いただいた。

また、同日、医学部附属看護専門学校では第48回いぶき祭（学校祭）を開催し、こちらも学生が主体となって、感染対策（手洗い）や妊婦体験など、看護の知識を活かした企画が催された。

旗ヶ岡祭を終えて

第62回旗ヶ岡祭が10月8日(土)、9日(日)の2日間で開催されました。

今年度は旗ヶ岡祭が人々の心を繋げるきっかけになってほしいという思いを込め、「Heart to heart」というテーマを掲げ、4月より実行委員一同準備を進めてまいりました。

3年ぶりの対面開催となりましたが、毎年恒例のピンゴ大会や新しい企画も行うことができ、皆様のご支援もあり多くのお客様に足を運んでいただくことができました。私自身初めての対面開催への取り組みとなりましたが、人の温かさや活気を直に感じ、テーマに沿ったハー

トフルな空間を皆様と一緒に作る事ができたと感じております。

来年度以降も皆様楽しんでいただけるよう旗ヶ岡祭の発展を目指し、我々一同準備を進めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

旗ヶ岡祭開催にあたりご協力いただきました関係者の皆様、そしてご来場いただきました皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第62回旗ヶ岡祭実行委員会 実行委員長
木名瀬 涼子さん(薬学部4年)



いぶき祭



留学生とともに 旗の台周辺の歴史と 日本文化を巡るツアーを開催

11月20日(日)、国際交流センターでは昭和大学で研修中の留学生と一緒に「おさんぽツアー」を開催した。感染症対策のため食事を伴わずにできる留学生との交流の場として、短い時間で旗の台界隈を周遊できる「荏原七福神めぐり」のコースを散策した。

参加した留学生は、ウィーン医科大学、サラゴサ大学、ペーチ大学の学部留学生と、中国、マダガスカル、モンゴル、フィリピン、ウクライナ、ベトナムからのリサーチフェロー11名で、本学学生12名はスチューデントインストラクターとして留学生と1対1のバディを組み、七福神や日本の文化などについて説明をしながら交流を深めた。

ちょうど境内の紅葉も始まり、立ち寄りお寺や神社で各々の七福神のスタンプを集めながら日本の文化に触れ、留学生、本学の学部生からも特別な体験ができたと好評を得た。

ちようど境内の紅葉も始まり、立ち寄りお寺や神社で各々の七福神のスタンプを集めながら日本の文化に触れ、留学生、本学の学部生からも特別な体験ができたと好評を得た。



We have learnt how to pray in each Temple and how beneficial is to do it after the New Year's Eve (January 1 - 7) to attract good luck in all our life: family, happiness, business, studies...

I was very surprised about the way of praying, and the "bowing coins" and "cleaning coins": it is said that 5 yen coin make a good relationship with people! So, I didn't doubt about doing it. Besides, while we were going through every temple we were recollecting stamps: とてもかわいい!

Compare to my country, as it is mostly Christianity, we don't have nothing similar to praying to more than one god. That's why I enjoyed a lot!

I really felt connected with Japanese traditional culture and the most important: meeting Japanese people and making new friends it's the best thing of being in Showa University!

私は日本でこのような貴重な体験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。サラゴサ大学医学部 Alicia Landa Herreroさん

ここからスタート!

摩耶寺



小山八幡神社



At the first temple on our tour (Mayaji Temple) everything was a bit new: from knowing how to pray properly, and what kind of stamps to collect, to how to enter the gate with humility. I especially enjoyed the insight on Japanese culture, learning on each stop more about how shrines and temples are used to pray at and to come to as a place of peace.

Every shrine and temple we visited had its own atmosphere and something that made it unique. Yougyokuin Nyoraji Temple stood out to me the most with its fascinating statues and trees in front of it in beautiful fall colors.

To make it short and sweet, I had a pleasant afternoon with great conversations and a new gained deeper understanding of Japanese culture!

ウィーン医科大学医学部 Cara Lauren Blabさん

法蓮寺



上神明天祖神社



増えますように



養玉院・如来寺



大井蔵王権現神社



不動院・東光寺



コロナ禍で多くのイベントが自粛を余儀なくされる中、留学生との国際交流イベントが開催されたことに心より感謝しています。

「おさんぽツアー」は留学生と昭和生がバディを組んで観光するというコンセプトになっており、今回は荏原七福神めぐりのツアーでした。留学生との交流だけでなく、自国の文化を再確認し他国との違いに注目できるいい機会であったと思います。

私のバディはペーチ大学の医学生でした。ヨーロッパと日本の医学教育や文化の違い、またロシアのウクライナ侵攻による影響など色々な内容の話ができました。全体としてとても楽しい時間でした。日本にいながら外国語を使う良い機会にもなったので、今後また参加したいと思います。

医学部4年 根本 貴史さん

令和4年度 科学研究費助成事業採択課題一覧

令和4年度の科学研究費助成事業交付内定額（5/1現在） ※延長課題は除く ※所属・役職は令和4年5月交付時点

令和4年度の科学研究費助成事業の交付は全体で312件が採択され、総計で3億880万円が交付される。

各所属の採択件数・交付額は以下の通り。

<p>■ 医学部：138件 1億3,293万円</p> <p>■ 保健医療学部：25件 1,570万円</p>	<p>■ 歯学部：94件 1億280万円</p> <p>■ 富士吉田教育部：4件 330万円</p>	<p>■ 薬学部：35件 3,390万円</p> <p>■ 研究所等：16件 2,020万円</p>
---	--	--

今号では、歯学部と薬学部の一覧を掲載する。

歯学部

研究種目	講座	所属	研究者名	内定額(円)	研究課題名	
基盤研究(B)	口腔生化学講座	教授	上條 竜太郎	4,400,000	低酸素環境下にある骨格系の恒常性維持と破綻における硫黄呼吸の役割解明	
	歯科補綴学講座	教授	馬場 一美	3,300,000	リポソリとiPS細胞バンクを基盤とした睡眠時ブラキシズム発症機序の解明	
	口腔病態診断科学講座／口腔病理学部門	教授	美島 健二	4,600,000	エピジェネティック制御を介した唾液腺幹細胞における多分化能維持機構の解明	
	歯学教育学講座	准教授	坂井 信裕	1,000,000	歯と骨の恒常性維持における脂質代謝関連分子の機能解明	
		講師	片岡 有	1,100,000	3次元傾斜構造型骨補填材の創生	
	口腔生理学講座	客員教授	池田 啓子	1,100,000	Naポンプ神経疾患の症状発現トリガー物質、アスコルビン酸が神経系に及ぼす基盤解明	
		准教授	中村 史朗	1,100,000	摂食機能の発達におけるセロトニン神経系の役割の解明	
		講師	鹿本 希世美	1,100,000	遺伝子工学を用いた孤束核嚙下ニューロンの網羅的解析	
	基盤研究(C)	口腔生化学講座	講師	望月 文子	900,000	セロトニンとGABAの相互関連による睡眠時ブラキシズムの発症機序の解明
			准教授	山田 篤	900,000	BMP活性促進因子KCPの骨形成促進機能の解明と硬組織再建への応用
口腔微生物学講座		助教	梅澤 はるか	1,000,000	腸管粘液由来の糖利用競争力を介したクレブシエラ菌の腸内定着に及ぼす影響の解明	
歯科薬理学講座		講師	唐川 亜希子	800,000	骨吸収抑制薬が歯根形成を抑制する分子メカニズムの解明	
		講師	茶谷 昌宏	800,000	鱈(ひれ)の骨周囲スペースを制御する未知細胞の同定と機能解明	
歯科保存学講座／歯科理工学部門		准教授	堀田 康弘	400,000	歯科用デジタルデータの規格化と新規3Dプリンタ用材料の実用化に向けた研究	
		講師	荻野 玲奈	1,500,000	単斜晶アパタイトの局所合成によるエナメル質初期う蝕再生療法	
歯科保存学講座／歯内治療学部門		教授(員外)	鈴木 規元	1,100,000	根尖病変の成立における抗RANKL抗体の骨吸収抑制機構の解明と臨床応用への期待	
		教授	山本 松男	1,200,000	多色細胞系譜追跡法を用いた歯肉接合上皮の細胞供給システムの解明と幹細胞の同定	
歯周病学講座		助教	相澤 怜	1,200,000	歯肉接合上皮の維持・防御機構における低分子量Gタンパク質Cdc42の機能の解析	
	准教授	岩佐 文則	900,000	セリアジルコニアインプラントの軟組織接着に関する先進的研究		
	准教授	田中 晋平	1,200,000	デジタル印象の精度向上のための補助デバイスの開発と検証に関する戦略的研究		
	講師	高場 雅之	900,000	無線型振動刺激を用いたスプリントによる睡眠時ブラキシズムの長期抑制効果の検証		
歯科補綴学講座	講師	安部 友佳	1,000,000	短縮歯列-第二大臼歯に対する固定性インプラント補綴の介入効果と治療選択要因の解明		
	兼任講師	横山 紗和子	1,200,000	インプラント治療を基盤とした最適補綴装置選択のための診断補助システムの構築		
	助教	松本 貴志	1,200,000	高効率5-HT2Aレセプター発現iPS細胞の樹立と新規単離法の開発		
口腔外科学講座／顎顔面口腔外科学部門	教授	代田 達夫	800,000	神経障害性疼痛の病態におけるTRPV1 Self-activation仮説の立証		
	兼任講師	葭葉 清香	700,000	メタゲノム解析を応用した心臓弁膜症の病態の解明と有効な周術期口腔機能管理法の確立		
	助教	椋代 義樹	1,700,000	口腔扁平上皮癌細胞における低酸素抵抗因子としてのスプラバシンの役割の検索		
歯科矯正学講座	准教授	中納 治久	1,000,000	アライナー型矯正装置が発生する矯正力の生体力学的研究		

研究種目	講座	所属	研究者名	内定額(円)	研究課題名	
基盤研究(C)	歯科矯正学講座	講師	高橋 正皓	1,000,000	Down症候群の顎顔面形態に関連する遺伝的要因の解明と3次元形態解析	
	口腔病態診断科学講座／口腔病理学部門	講師	安原 理佳	1,000,000	軟骨分化過程における関節表層細胞のエピゲノム解析	
	口腔病態診断科学講座／歯科放射線医学部門	講師	松田 幸子	600,000	AIを用いた口腔機能低下(オーラルフレイル)自動画像診断支援ソフトウェアの開発	
	インプラント歯科学講座	講師	佐藤 大輔	800,000	磁性アタッチメントを用いた非侵襲的新規インプラント安定度測定法の確立	
		講師	浅川 剛吉	800,000	Down症候群歯根膜由来細胞による骨髄間葉系幹細胞遊走因子発現解析	
	小児成育歯科学講座	講師	杉山 智美	1,300,000	医療面接における客観的評価方法の開発-音響分析を用いた評価について-	
		助教(歯科)	新田 雅一	400,000	ジュニアアスリートへの新規素材を応用したスポーツマウスガードの開発	
	高齢者歯科学講座	教授	佐藤 裕二	600,000	高齢者の口腔機能・食欲・体組成に着目した要介護へ至るフレイルサイクルの解明	
		准教授	古屋 純一	700,000	低栄養・終末期高齢者の食に対する多職種協働と口腔機能管理の在り方	
		兼任講師	七田 俊晴	600,000	口腔機能低下症の初期症状を早期発見するための「口腔機能年齢」早見表の確立	
挑戦的研究(萌芽)	全身管理歯科学講座／歯科麻酔科学部門	教授	飯島 毅彦	1,300,000	血管透過性制御におけるマクロファージの機能解析	
	全身管理歯科学講座／総合内科学部門	教授(員外)	木庭 新治	400,000	心大血管リハビリテーションによるHDL機能の改善と再発予防効果の解明	
	スペシャルニーズ口腔医学講座／口腔衛生学部門	講師	内海 明美	300,000	幼児期の食習慣が学齢期の口腔機能発達に及ぼす要因分析とスクリーニング方法の開発	
		講師	渡邊 賢礼	1,200,000	顎・舌運動と食塊移送から読みとく咀嚼機能評価	
	スペシャルニーズ口腔医学講座／医科歯科連携診療歯科学部門	講師	石崎 晶子	1,400,000	低出生体重児に対する口腔周囲筋の筋輝度を指標とした口腔機能発達支援方法の確立	
		准教授	伊佐津 克彦	400,000	臨床研修歯科医師指導用の生体センシング技術による技能教育方法の開発	
	スペシャルニーズ口腔医学講座／顎関節治療学部門	教授(員外)	菅沼 岳史	400,000	パラファンクションによる歯の接触頻度と咬合力が歯根膜感覚に及ぼす影響	
		兼任講師	渡邊 友希	400,000	歯科慢性痛患者を対象とした認知行動療法プログラムの作成と有効性の検討	
	若手研究(B)	口腔生理学講座	教授	井上 富雄	1,100,000	咀嚼と機能連関する唾液分泌の中樞神経メカニズムの解明
		口腔病態診断科学講座／口腔病理学部門	教授	美島 健二	1,200,000	唾液分泌障害における唾液腺幹細胞の機能制御メカニズムの解明
若手研究	口腔生理学講座	兼任講師	石川 万里子	※ -	精神疾患患者の窒息事故を予測するための診断プロトコールの開発	
	口腔解剖学講座	助教	藤川 芳織	800,000	歯周炎モデルにおける接合上皮修復機構の解析	
		助教	井上 知	1,200,000	歯周病による骨折治癒遅延のメカニズム解明	
	口腔生理学講座	助教	壇辻 昌典	900,000	光遺伝学を用いたセロトニン神経系による咀嚼運動の制御メカニズムの解明	
	口腔生化学講座	助教	笹 清人	2,100,000	ラクチル化ヒストン修飾による間葉系幹細胞の分化振り分け機序の解明	
	口腔微生物学講座	兼任講師	山田 理	600,000	う蝕罹患歯質における赤色励起蛍光発現条件の開発	
	歯科薬理学講座	助教	畔津 佑季	1,200,000	骨と歯の恒常性維持機構におけるグルココルチコイドの機能解析	
	歯科保存学講座／歯科理工学部門	助教	渡邊 知恵	1,300,000	老化抑制遺伝子欠損マウスの切歯を用いた加齢に伴う硬組織劣化機構の材料学的分析	
	歯科保存学講座／歯内治療学部門	客員講師	高林 正行	100,000	複合現実(MR)による外科的歯内療法の見視支援開発	
	歯周病学講座	助教	本郷 智之	600,000	清掃困難な根管に対する半導体レーザーによる根管洗浄の殺菌清掃効果の解明	
兼任講師		山田 純輝	300,000	キャビテーション噴流を利用した新規口腔清掃器具の開発		
兼任講師		西山 弘崇	900,000	少数歯欠損における新たな部分床義歯の開発-フルデジタル・ワークフローの確立と提唱		
兼任講師		中里 友香理	1,200,000	脳波評価を応用した振動刺激による睡眠時ブラキシズム抑制効果発現機序の解明		
歯科補綴学講座	兼任講師	三好 敬太	1,100,000	デジタル印象法における高精度スキャン補助デバイスの開発に関する戦略的研究		
	兼任講師	中井 健人	700,000	睡眠時ブラキシズム患者に特異的な細胞間ネットワークの解明と疾患モデルへの展開		
	助教	三田 稔	600,000	デジタル技術を用いた機械学習によるオーラルフレイルの予測モデルの構築		
	助教(歯科)	飯泉 亜依	1,600,000	CAD/CAM技術とスプリント摩耗評価に基づく睡眠時ブラキシズム診断手法の確立		

※継続課題につき、今年度の配分金なし

研究種目	講座	所属	研究者名	内定額(円)	研究課題名
若手研究	歯科補綴学講座	助教(歯科)	小原 大宜	2,500,000	睡眠時ブラキシズムのデータベース構築および疾患構造の解明
		助教(歯科)	楠本 友里子	1,000,000	無歯顎者の補綴治療法ディンジョンメイキングにおける予測モデルの構築
		普通研究生	田林 万奈	500,000	デジタル技術を用いたTooth Wearの診断モデルの構築
	口腔外科学講座／顎顔面口腔外科学部門	兼任講師	高松 弘貴	800,000	シェーグレン症候群患者へ対する新規治療法の開発
		助教	守谷 崇	1,200,000	除脳動脈灌流標本を用いたイミダプリルの作用メカニズムの解析
		助教	宮本 崑也	1,200,000	TPD52ファミリータンパクを介するスプラバシンのオートクライン機構の検索
	口腔病態診断科学講座／口腔病理学部門	助教	行森 茜	1,600,000	Foxc1を介した唾液腺初期発生メカニズムの解明
		助教	鯨岡 聡子	800,000	免疫チェックポイント分子PD-L1を介したシェーグレン症候群治療モデルの開発
		助教	石田 尚子	1,700,000	遺伝子変異ヒト唾液腺オルガノイドを用いた唾液腺腫瘍関連遺伝子変異の機能解析
	歯科矯正学講座	助教	吉田 寛	1,600,000	顎顔面領域に存在する神経堤由来幹細胞による顎裂部骨移植術の開発
助教		長濱 諒	1,300,000	3次元的症状分類からのHemifacial microsomiaのヒトゲノム解析	
助教		鬼丸 美菜子	1,000,000	機能的顎矯正装置により発生する荷重ベクトル計測システムの確立	
小児成育歯科学講座	助教	下村 直史	300,000	ナノインデンテーション試験によるS-PRG作用歯の歯質強化機構の解明	
	助教	松島 瞳	500,000	乳幼児期におけるミティスレンサ球菌の口腔内細菌叢形成における役割の解明	
	助教(歯科)	井澤 基樹	1,400,000	成長期における骨吸収抑制薬の作用機序の解明	
スペシャルニーズ口腔医学講座／医科歯科連携診療歯科学部門	助教	松井 庄平	300,000	口腔内細菌叢と認知症病態の関連性の解明	
	助教	佐藤 あや子	500,000	メタゲノム解析を用いた口腔内細菌叢と内頸動脈狭窄症との関連性の追求	
	講師	野末 真司	2,300,000	頭部聴診法を用いた咽頭通過時における食塊形成の診断精度の解明	
スペシャルニーズ口腔医学講座／口腔機能リハビリテーション医学部門	兼任講師	小池 丈司	200,000	頭頸部がん治療後の口腔乾燥に対する新規治療法の確立	
	助教	嘉手納 未季	400,000	自閉症患者への新しい行動変容法の開発-ARの応用によるトークンエコノミー-	
	助教(歯科)	馬目 瑤子	1,000,000	TLR7リガンドR848による癌骨浸潤治療法の開発	
スペシャルニーズ口腔医学講座／顎関節症治療学部門	助教	佐藤 多美代	1,500,000	覚醒時ブラキシズムの発生と脳血流酸素動態の関係	
	助教	田下 雄一	2,900,000	早期社会復帰に向けた嚥下訓練支援アプリ使用によるQOLおよび全身・嚥下機能の変化	
	助教	茶谷 昌宏	1,900,000	遺伝子変異ゼブラフィッシュの骨イメージングによるメカニカルストレス応答機構の解明	
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	歯科薬理学講座	講師	茶谷 昌宏	1,900,000	遺伝子変異ゼブラフィッシュの骨イメージングによるメカニカルストレス応答機構の解明
	口腔外科学講座／顎顔面口腔外科学部門	助教	田中 元博	1,200,000	変形性関節症の病態の解明とその制御解明
	全身管理歯科学講座／歯科麻酔科学部門	助教	篠原 茜	1,200,000	崩壊した血管内皮グリコカリックスの回復促進による病態治療戦略の基盤開発
研究活動スタート支援	スペシャルニーズ口腔医学講座／医科歯科連携診療歯科学部門	助教	菊池 真理子	1,200,000	精神ストレスによる口腔エコシステムの変化と唾液メラトニンの機能検証

薬学部

研究種目	講座	所属	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(C)	基礎薬学講座／医薬化学部門	教授	福原 潔	1,300,000	アミロイドβ切断活性を有するアルツハイマー病治療薬の開発
		准教授	太田 公規	1,000,000	ホウ素を枢要とした創薬イノベーションと長寿社会を担う画期的新薬の創出
	基礎薬学講座／生体分析化学部門	講師	村山 周平	1,200,000	光応答性ナノ粒子を用いた低分子化合物の微細空間における活性の量的制御法の開発
	基礎薬学講座／生物物理化学部門	教授	合田 浩明	1,900,000	量子化学計算に基づいたリガンド結合部位の分子相互作用場算出法の開発
	基礎薬学講座／生物化学部門	教授	板部 洋之	1,000,000	Sar1bの機能に基づいた新たな細胞内脂肪滴の形成制御因子群の探索
	基礎薬学講座／腫瘍細胞生物学部門	教授	柴沼 質子	900,000	呼吸鎖活性一代謝ストレス応答系の共役機構の破綻に基づく臓器横断的癌治療薬の提案
基礎医療薬学講座／毒物学部門	講師	森 一憲	1,200,000	転移抑制を目指したRac1によるintegrin β4の分解抑制機構の解明	
	准教授	芦野 隆	1,100,000	高求核活性イオウ分子による血管レドックス制御と動脈硬化進展抑制への応用	

研究種目	講座	所属	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(C)	基礎医療薬学講座／薬理学部門	准教授	柴田 佳太	500,000	真菌由来天然物を用いた糖尿病性腎症の新たな治療戦略の構築
		講師	古林 創史	1,100,000	CHP3欠損マウスを用いた糖尿病由来の心不全発症メカニズムの解明
	基礎医療薬学講座／薬理学部門	講師	齊藤 清美	900,000	低侵襲かつ簡便な統合失調症評価指標の確立：唾液アディポネクチンを用いて
	基礎医療薬学講座／薬物動態学部門	准教授	杉山 恵理花	800,000	個別化医療を目指した13C-リドカイン呼気試験による薬物動態変動評価系の検討
	社会健康薬学講座／衛生薬学部門	講師	佐々木 由香	1,000,000	化学物質曝露に伴う膀胱疾患の発症進展におけるプロスタグランジン合成酵素の機能解析
	社会健康薬学講座／社会薬学部門	教授	岸本 桂子	600,000	薬局における薬剤師と慢性疾患患者の双方向的な情報提供促進に繋がる対話構造の解明
		助教	熊木 良太	200,000	薬局における臨床栄養教育カリキュラムの確立
	臨床薬学講座／薬物治療学部門	教授	向後 麻里	500,000	脂質異常症患者に対する薬局薬剤師の介入モデルの構築と臨床的アウトカムの評価
	臨床薬学講座／天然医薬治療学部門	教授	川添 和義	700,000	漢方薬を活用した口腔乾燥改善薬開発～iPS細胞と臨床による検証～
	臨床薬学講座／がんゲノム医療学部門	教授	藤田 健一	1,100,000	肝がん患者でのアルブミン低下と治療薬レンパチニブの遊離形体内動態・薬物応答の関連
臨床薬学講座／臨床栄養代謝学部門	講師	唐沢 浩二	200,000	プレバイオティクス含有栄養剤と医薬品の相互作用の解明	
病院薬剤学講座	准教授	須永 登美子	200,000	有害事象報告データおよびレセプトデータを用いた薬物相互作用に関する研究体制の構築	
	准教授	百 賢二	600,000	ナノ化技術を応用したがん患者の口腔粘膜炎症疼痛緩和のための新規医薬品開発	
若手研究	基礎薬学講座／医薬化学部門	講師	水野 美麗	800,000	スーパーフードの有効性と安全性に関する化学的解明
	基礎薬学講座／生物物理化学部門	助教	小田 友里江	※ -	PgDPP11を標的とした歯周病治療薬開発のためのin silico創薬
	基礎薬学講座／腫瘍細胞生物学部門	助教	日暮 大渡	1,900,000	呼吸鎖複合体によるヒストン修飾制御を介した癌増殖メカニズムの解明と臨床的意義
	基礎医療薬学講座／生理学部門	講師	上條 翔太郎	1,100,000	高齢マウスの海馬での神経新生を促す至適運動強度の解明
	社会健康薬学講座／衛生薬学部門	助教	落合 翔	1,800,000	炎症性疾患におけるマクロファージに局在するプロスタサイクリン合成酵素の機能解析
	臨床薬学講座／感染制御薬学部門	准教授	前田 真之	500,000	カルバペネム系薬使用量予測のための新規マトリックスの開発
	臨床薬学講座／がんゲノム医療学部門	講師	半田 智子	1,000,000	アプリを用いた免疫チェックポイント阻害薬治療中のがん患者の副作用管理
		講師	松本 奈都美	1,200,000	カベシタビンの体内動態・毒性と核酸を輸送するトランスポーターの遺伝子多型との関連
	臨床薬学講座／薬物治療学部門	助教	里 美貴	600,000	血中および組織内スニチニブ代謝物濃度に基づく個人差の要因解明と効果予測の構築
	臨床薬学講座／臨床研究開発学部門	准教授	肥田 典子	100,000	アスピリンミニタブレット血中薬物濃度測定試験～ミニタブレット実用化を目指して
講師		山崎 太義	800,000	とろみ調整食品併時の抗菌薬への影響～健康成人を対象とした薬物動態の検討～	
臨床薬学講座／臨床病態学部門	助教	前田 耕平	1,200,000	乾癬における新規細胞性免疫活性化メカニズムの解明	
病院薬剤学講座	講師	杉田 栄樹	900,000	感染症治療及び制御に関する効果的かつ効率的な介入及びフィードバック手法の構築	
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	社会健康薬学講座／衛生薬学部門	客員教授	姫野 誠一郎	4,000,000	ヒ素による代謝性疾患発症機構の解明を目指すフィールド・基礎融合研究

※継続課題につき、今年度の配分金なし

次号(Mar. 2023)では、保健医療学部と富士吉田教育部、研究所等の一覧を掲載する。

令和4年度

永年勤続者表彰

令和4年度の表彰者は勤続35年23名、勤続25年46名、勤続15年135名。

本学で永きにわたり職務に精励し、本学の発展に貢献した職員を表彰する永年勤続者表彰により204名の職員が表彰された。

【令和4年度永年勤続表彰者】

35年表彰者 (23名)	※敬称略
田中 弘之	医学部 外科学講座心臓血管外科学部門
真鍋 厚史	歯学部 歯科保存学講座美容歯科学部門
長谷川 篤司	歯学部 歯科保存学講座総合診療歯科学部門
田中 佐知子	薬学部 薬学教育学講座教育実践学部門
柴田 雅子	昭和大学医学部附属看護専門学校
青柳 智恵子	旗の台校舎 総務部秘書課
山口 淳	旗の台校舎 人事部人権啓発推進課
石川 隆	旗の台校舎 財務部法人経理課
及川 亮	医師臨床研修センター事務室事務課
山本 美紀	昭和大学病院 医事外来課
俣賀 清人	昭和大学藤が丘病院 管理課
右近 美恵子	医学部 生理学講座生体制御学部門
渡辺 香	富士吉田校舎 学生寮
山口 美保	昭和大学藤が丘病院 看護部
只野 江理子	昭和大学横浜市北部病院 6階B病棟
大野 一夫	昭和大学藤が丘病院 臨床病理検査室臨床検査部門生理検査室
石原 恭美	昭和大学藤が丘病院 臨床病理検査室臨床検査部門輸血検査室
十良澤 勝雄	昭和大学藤が丘病院 臨床病理検査室臨床検査部門輸血検査室
大段 剛	昭和大学横浜市北部病院 臨床工学室 (CE)
西堀 英城	昭和大学江東豊洲病院 臨床工学室 (CE)
各務 信幸	昭和大学歯科病院 中央技工室
長谷部 茂美	昭和大学附属烏山病院 栄養科
澤部 慶子	昭和大学藤が丘病院 栄養科

25年表彰者 (46名)	※敬称略
田中 大介	昭和大学保健管理センター
大塚 成人	医学部 解剖学講座肉眼解剖学部門
松宮 彰彦	医学部 外科学講座消化器一般外科学部門
池田 尚人	医学部 脳神経外科学講座
富士 幸藏	医学部 泌尿器科学講座
稲本 淳子	医学部 精神医学講座
岩佐 文則	歯学部 歯科補綴学講座
嶋村 弘史	薬学部 病院薬剤学講座
小林 麻美	薬学部 病院薬剤学講座
脇谷 美由紀	保健医療学部 看護学科

鈴木 久義	保健医療学部 作業療法学科
佐口 健一	保健医療学部 保健医療学教育学
安田 光慶	大学院保健医療学研究科
花井 恵美子	昭和大学医学部附属看護専門学校
細野 知彦	昭和大学動物実験施設
渋谷 邦彦	旗の台校舎 総務部総合情報管理課
地頭所 真貴	旗の台校舎 人事部給与厚生課
和田 洋一	富士吉田校舎 学事部富士吉田校舎事務課
三上 匠	昭和大学病院 医事外来課
青木 秀憲	昭和大学横浜市北部病院 管理課
國府田 範子	昭和大学横浜市北部病院 医事外来課
大矢 眞記子	昭和大学横浜市北部病院 医事入院課
徳田 幸子	昭和大学病院 看護部
久米 守幸	昭和大学病院 内視鏡センター
小林 恭代	昭和大学病院 救命救急病棟
中嶋 冬美	昭和大学病院 ICU
山本 裕子	昭和大学病院 CCU
三浦 まき	昭和大学病院 CCU
高橋 多香子	昭和大学病院 6階病棟
志賀 麻美	昭和大学病院 13階病棟
鳥居 直子	昭和大学藤が丘病院 透析センター
南部 恭子	昭和大学藤が丘病院 4階西病棟
原田 亜紀	昭和大学藤が丘病院 7階西病棟
梅園 夕子	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 5階病棟
鈴木 三和子	昭和大学横浜市北部病院 外来
前田 千鶴子	昭和大学横浜市北部病院 6階A病棟
渡邊 美津子	昭和大学江東豊洲病院 外来
高鳥 光子	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 2階病棟
駒井 敦子	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 2階病棟
増田 佳恵	昭和大学附属烏山病院 B4病棟
佐藤 美鈴	昭和大学病院 臨床病理検査室臨床検査部門検体検査室
岩村 ちなみ	昭和大学病院 臨床病理検査室臨床検査部門輸血検査室
小島 朋子	昭和大学横浜市北部病院 臨床病理検査室臨床検査部門病理検査室
金子 福和	昭和大学藤が丘病院 放射線技術部
宇都宮 真一	昭和大学歯科病院 中央技工室
堀内 俊吾	富士吉田校舎 栄養科

学内会議報告

就任のお知らせ (10月11日理事会承認)

昭和大学脳機能解析・デジタル医学研究所長



佐藤 洋輔

現：医学部脳神経外科学講座担当 講師
任期：令和5年4月1日～令和8年3月31日 ※令和4年10月11日～令和5年3月31日の期間は、所長候補者として任命

就任のお知らせ (11月8日理事会承認)

医学部眼科学講座担当 教授

昭和大学横浜市北部病院外科系診療センター眼科診療科長

勤務地：昭和大学横浜市北部病院外科系診療センター（眼科）



藤澤 邦見

現：医学部眼科学講座担当 教授（員外）
任命日：令和5年4月1日

医学部小児科学講座（小児内科学部門）担当 教授（員外）

勤務地：昭和大学病院小児科



安達 昌功

前：医学部小児科学講座（小児内科学部門）担当 准教授
任命日：令和4年11月8日

昭和大学横浜市北部病院内科系診療センター

放射線治療科診療科長

勤務地：昭和大学横浜市北部病院内科系診療センター（放射線治療科）



新城 秀典

現：医学部放射線医学講座（放射線治療学部門）担当 准教授
任命日：令和4年11月8日

理事会関係

◆令和4年度活性化推進プロジェクト

本学は、より盤石な体制を築くことを目的に、理事会のもとに法人・大学活性化推進委員会及び病院活性化推進委員会を平成19年から設置している。各委員会ではプロジェクトを立ち上げ、活発な議論を重ね、改革に向けた答申を作成する。今年度は、法人・大学活性化推進委員会に4つのプロジェクト、病院活性化推進委員会に3つのプロジェクトが設置され、それぞれの答申案が承認された。

【法人・大学活性化推進プロジェクト】

- ①2年次実習の1年次への移動検討プロジェクト
- ②大学院研究科基礎系研究組織見直し検討プロジェクト
- ③大学院教育職員の任用および昇任に関する制度の制定検討プ

- ④プロジェクト
- ④昭和大学特別奨学金受給者の募集およびフォローアップ制度検討プロジェクト

【病院活性化推進プロジェクト】

- ①医師の働き方改革（シフト制）の周知・徹底検討プロジェクト
- ②病院歯科室運営のあり方検討プロジェクト
- ③地域医療連携における二人主治医制検証プロジェクト

◆寄付講座の設置

以下のとおり寄付講座を設置することが承認された。

【名称】医学部地域循環器救急医学寄付講座

【設置目的】茨城県鹿行地域（鹿嶋市、神栖市、潮来市、鉾田市、行方市）は、心血管疾患の医療提供体制が非常に脆弱であることから、自治体からの寄付金を基に寄付講座を設置し、循環器救急医療提供体制の発展ならびに心血管疾患領域の研究を促進するため。

【設置日】令和5年4月1日

【寄付講座の期間】5年間 ※更新あり

◆「昭和大学大学院学則」改正

大学院研究科基礎系組織見直し検討プロジェクトの答申、大学院教育職員の任用および昇任に関する制度の制定検討プロジェクトの答申、大学院設置基準の一部を改正する省令（令和2年6月30日）に基づき、以下のとおり改正することが承認された。

【改正趣旨】

- ①医学研究科医学専攻の〇〇系、〇〇学を廃止
- ②歯・薬・保健医療学研究科の入学定員及び収容定員の変更
- ③他大学院及び入学前の既修得単位の認定単位数の変更
- ④研究指導を行えるのは教授、准教授から研究指導教員に変更

【施行日】令和5年4月1日

◆歯学研究科・薬学研究科・保健医療学研究科博士後期課程の入学定員数変更

以下のとおり入学定員数等を変更することが承認された。

【施行日】令和5年4月1日

	歯学研究科		薬学研究科		保健医療学研究科 博士後期課程	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
現 行	18人	72人	12人	48人	4人	12人
変 更 後	22人	88人	15人	60人	6人	18人

◆歯学部講座・部門再編

歯学部の各講座・部門それぞれの役割を明確化するため、以下のとおり再編することが承認された。



変更前	変更後
歯科保存学講座 歯科理工学部門	歯科理工学講座
歯周病学講座	歯科保存学講座 歯周病学部門
高齢者歯科学講座	口腔健康管理学講座 口腔機能管理学部門
スペシャルニーズ口腔医学講座 口腔機能リハビリテーション医学部門	口腔健康管理学講座 口腔機能リハビリテーション医学部門
スペシャルニーズ口腔医学講座 医科歯科連携診療歯科学部門	全身管理歯科学講座 医科歯科連携診療歯科学部門
スペシャルニーズ口腔医学講座 障害者歯科学部門	全身管理歯科学講座 障害者歯科学部門
スペシャルニーズ口腔医学講座 顎関節症治療学部門	歯科補綴学講座 顎関節症治療学部門
スペシャルニーズ口腔医学講座 口腔衛生学部門	口腔衛生学講座

※「スペシャルニーズ口腔医学講座」を廃止

【変更日】令和5年4月1日

◆「昭和大学シンシアー奨学金に関する規程」改正および

「昭和大学医学部・歯学部・薬学部特別奨学金に関する規程」改正

以下のとおり承認された。

【改正趣旨】各奨学金は、これを受給した学生が卒業後に直ちに本学の一人となり、本学の発展に貢献することを期待して給付するものであることから、給付の対象者について、地域枠選抜入試による入学、または学外の奨学金の受給等により、原則として卒業後に直ちに学外で勤務することを課せられている者は除外することに改めるため。

【施行日】令和4年12月1日

◆「昭和大学特別奨学生の会会則」制定

以下のとおり承認された。

【制定趣旨】昭和大学医学部・歯学部・薬学部特別奨学金を受給した者および現に受給している者に対するフォローアップを目的とした会を設立し、会の運営に必要な事項を明確に定めるため。

【施行日】令和4年4月1日

◆創立100周年記念事業

「創立100周年記念事業」として、各キャンパス等の整備事業4件を行うことが承認された。

【創立100周年記念事業】

- ・旗の台キャンパス整備事業
- ・新キャンパス整備事業
- ・富士吉田キャンパス整備事業
- ・藤が丘病院再整備事業

◆創立100周年記念事業募金

各キャンパス等の整備事業を円滑に実施するため、「創立100

周年記念事業募金」を実施することが承認された。

【募金概要】

募 集 対 象	個人、法人、団体、専任職員
目 標 額	30億円
受 付 金 額	個人 一口5万円以上
	法人・団体 申込金額は特に定めない
	専任職員
募 集 期 間	令和4年12月1日～令和11年3月末日

◆創立100周年記念事業学校債券発行

各キャンパス等の整備事業に充てる資金を確保するため、「創立100周年記念事業学校債券」を発行することが承認された。

【学校債券概要】

募 集 対 象	限定なし
目 標 額	10億円
債 券 額 面	1口1千万円 1口以上
借 入 期 間	満5年間
利 息	年利0.08%
開 始 日	令和4年12月1日

◆まごころ学校債券発行

各キャンパス等の整備事業に充てる資金を確保するため、専任職員を募集対象として、まごころ学校債券を発行することが承認された。

【まごころ学校債券概要】

募 集 対 象	専任職員 ※申込時に専任職員であること
目 標 額	10億円
債 券 額 面	1口1千万円 1口以上
借 入 期 間	満5年間 年利0.30%
お よ び 利 息	満3年間 年利0.25%
開 始 日	令和4年12月1日

◆令和4年度学長業務執行状況監査報告

学長選考会議による監査および監事による監査の結果について報告がなされ、いずれの監査においても、当該任期に期待する業務基準を上回るとの評価に至った。

【学長選考会議による監査（特記事項）】

アクティブラーニングを取り入れた新しいスタイルの医療人教育の構築のため、全学部でカリキュラム改革が履行できたことは、学長の優れたリーダーシップによるものと評価できる。

【監事による監査（特記事項）】

毎月の理事会にて、教学面における現状の取組みや今後の計画等について、学務委員会報告として役員・執行役員に情報を共有することで、教学面のガバナンスの透明性を確保しようとする

姿勢は、教学面の責任者にふさわしい態度であると認める。

◆「昭和大学まごころ預金管理規程」制定

以下のとおり承認された。

【制定趣旨】学内預金の取り扱いについては、「学内預金管理規程」に必要な事項を定めて運用してきたが、学内預金の種類は「まごころ預金」のみであることから、当該規程の名称を改め「昭和大学まごころ預金管理規程」とするとともに、預金の限度額を1,000万円から5,000万円に変更するため。

【施行日】令和4年12月1日

病院関係

◆病院機能評価審査結果

【昭和大学病院】

昭和大学病院は1999年より公益財団法人日本医療機能評価機構が定める病院機能評価の認定を受け、5年に1度の更新審査で認定を受けている。このたび第4回更新審査を受審し、同機構より審査結果として「認定」の通知を受けた。今回の受審は、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の受審予定時期から2年間にわたる延期を経て行われた。認定期間は2019年12月20日から2024年12月19日。次回の受審は2024年度の予定。

【藤が丘病院】

藤が丘病院は2011年より公益財団法人日本医療機能評価機構が定める病院機能評価の認定を受け、5年に1度の更新審査で認定を受けている。このたび第3回更新審査を受審し、同機構より審査結果として「認定」の通知を受けた。認定期間は2021年6月3日から2026年6月2日。次回の受審は2026年度の予定。

学務関係

◆令和5年施行 国家試験日程

令和5年施行 国家試験日程について以下のとおり報告がなされた。

	試験日	合格発表日
医師	令和5年2月4日、5日	令和5年3月16日
歯科医師	令和5年1月28日、29日	令和5年3月16日
薬剤師	令和5年2月18日、19日	令和5年3月22日
看護師	令和5年2月12日	令和5年3月24日
理学療法士	令和5年2月19日、20日	令和5年3月23日
作業療法士	令和5年2月19日、20日	令和5年3月23日
助産師	令和5年2月9日	令和5年3月24日
保健師	令和5年2月10日	令和5年3月24日

◆大学院各種試験結果

令和4年度および令和5年度大学院各種試験結果について、以下のとおり報告がなされた。

研究科	試験種別	試験日	合格者数
医学研究科	入学試験(秋季)		10名
	〃 (春期1期)		12名
	外国語試験		17名
	MDプログラム試験		8名
歯学研究科	入学試験(秋季)		1名
	〃 (春期1期)	8月21日	5名
	外国語試験		4名
	MDプログラム試験		0名
薬学研究科	入学試験(秋季)		2名
	〃 (春期1期)		16名
	外国語試験		5名
	MDプログラム試験		1名
保健医療学研究科	入学試験(秋季)	博士前期	3名
		博士後期	2名
	外国語試験		0名

◆令和4年度 昭和大学卒業式の実施

【昭和大学卒業式】

日 時	令和5年3月15日(水) 午前10時
場 所	パシフィコ横浜 国立大ホール
参 加 者	卒業生・教育職員・保護者(※人数制限なし)・各クラブ(管弦楽団、グリークラブ、アカペラ部、応援指導部)

※新型コロナウイルス感染状況により人数制限等の制約が生じる可能性あり。

【学位記伝達式】

日 時	令和5年3月15日(水) 卒業式終了後
場 所	アネックスホール(医学部・歯学部・保健医療学部) パシフィコ横浜 国立大ホール(薬学部)
参 加 者	卒業生・教育職員 ※保護者および在学生の参加は見合わせる

◆次世代シークエンサーの運用

令和4年度新型コロナウイルス感染症検体検査機器設備整備費補助事業を活用し、次世代シークエンサーを購入して昭和大学病院PCRセンターで使用する。昭和大学病院PCRセンターの研究者だけではなく、多くの研究者が使用することを想定している。

i Information

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

統括研究推進センター事務局

令和4年度学術論文投稿・掲載料、外国語論文校正費用助成制度について (SURAC)

研究活動促進を目的に、「学術論文投稿・掲載料、外国語論文校正費用助成制度」を設置し、論文に関する費用助成を行っております。

【助成金額】 ※下記助成額を上限とし、実費額を助成する。

- ・外国語論文の投稿・掲載料及び外国語論文校正費用 ……10万円/回
- ・日本語論文の投稿・掲載料 ……5万円/回

【助成金応募方法】

学内専用サイトをご確認ください。

【助成対象】

- ・医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部に所属する常勤教育職員および大学院生であり、掲載が決定した論文の筆頭著者
- ・令和4年度において学術誌に掲載が決定した論文の経費（投稿料・掲載料・外国語論文校正料）

※令和3年に支払ったものも含む

- ・令和3年度末の講座研究費残高が3,000万円を超えていない講座（部門・診療科）に所属する研究者
- ・1つの論文につき上記金額を上限として1回の申請が可能であり、対象論文が複数ある場合は論文毎に申請が可能です。

お問い合わせ 統括研究推進センター事務局 研究支援課

メール：Josei01@ofc.showa-u.ac.jp



昭和大学図書館

「昭和大学研究者情報・業績集」公開のお知らせ

「昭和大学研究者情報・業績集」は、2022年10月31日(月)に新システムにて公開し、登録・編集が可能になりました。学校教育法施行規則に則り、各大学においては教育職員が有する学位および業績を公表することとなり、本学では「昭和大学研究者情報・業績集」を用いて、研究者情報と業績を登録するよう義務付けられています。

- ・2019年度以降の昭和大学の業績を登録してください。
- ・業績のある方はどなたでも登録できます（専任教育職員の登録は必須です）。詳細については、ログイン後の“マニュアル等”でご確認ください。

【昭和大学研究者情報・業績集】 <https://rira.showa-u.ac.jp>

お問い合わせ 昭和大学図書館 業績集担当

メール：achieve@lib.showa-u.ac.jp

電話：03-3784-8042

人事部

「医師の働き方改革」に関するページを新設しました

2024年4月から医師の働き方改革が開始となり医師の時間外労働時間が法律により規制されます。

働き方改革を推進していくためには、教職員の皆様のご理解とご協力が必要不可欠です。

学内専用サイトに「医師の働き方改革」ページを新設いたしましたので、規制の内容や本学の取組に関して、資料や動画配信等を通して、情報発信をまいります。

お問い合わせ 人事部 働き方改革担当

メール：jinji-work@ofc.showa-u.ac.jp

電話：03-3784-8013



リカレントカレッジ事務局

2023年度 昭和大学リカレントカレッジ 春期プログラム受講生募集開始

1月10日（火）より2023年度リカレントカレッジ春期プログラム受講生の募集を開始します。全26講座を取り揃えた春期プログラムでは、オンライン講義や対面とオンラインを併用したハイブリッド講義もあり、ライフスタイルに合わせての受講が可能となっています。今回は4月開講講座をご紹介します。資料請求・講座申し込みはリカレントカレッジホームページをご覧ください。

【4月開講】 申込締切：2023年3月15日(水)

プログラム名(4月開講)	講師(敬称略)
100年時代を生き抜く賢い生活の知恵	山岸昌一
医療と死生観 ～人生の意味・役割を問う～	高宮 有介 他
宇宙教育のすすめ その4 ～身近にある宇宙・天文技術の共有～	和田 直樹
命の現場から届ける「悔いない人生」を送る6つの秘訣 ～終末期の現場からみえてきた幸福な人生とは？～	高宮 新之介 他
人生100年最後の10%を有意義に生きるための処方箋 ～筋トレ・栄養・健康のサイエンス～	蜂須 貢 他
日本映画で見る「失われたもの」	内田 樹

(右ページに続く)

プログラム名(4月開講)	講師(敬称略)
歴史に隠れた病気を探る	小川 良雄
医師国家試験問題から見た我が国の医療	小風 暁
人生がハッピーになる 大人のためのオシッコ学	小川 良雄
地域共生社会に貢献できる 持続可能な健康増進プロジェクト ～地域(職場)の健康増進企画(入門コース)～	片岡 竜太 他
自分や家族を守る上手な薬の選び方 ～入門篇～	赤川 圭子 他
刻書を知る	新井 平八郎
東京の庭園の魅力V ～歴史と美を愉しむ～	鈴木 誠

※定員に達し次第、受付を終了いたします。

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。

お問い合わせ 昭和大学リカレントカレッジ事務局

電話：03-3784-8143



1 「刻書を知る」/製作を体験している様子 2 「医療と死生観」/ハイブリッド講座の様子 3 「諸国名庭園探訪」/実地研修の様子

上條記念ミュージアム

第2弾 学生クラブの歴史紹介展

【期間】 開催中～2023年6月30日(金)終了予定

【開館】 火曜日・金曜日13:00～15:00(要予約)

【展示紹介クラブ】 北岳診療部/医学部硬式野球部/陸上競技部 /救急医療研究部

皆さまのご来館をお待ちしております。



お問い合わせ 昭和大学上條記念ミュージアム

電話：03-3784-8031

メール：museum@ofc.showa-u.ac.jp



認定看護師教育センター

2023年度 昭和大学認定看護師教育センター入学試験

編入および特定行為研修のみの受講生を募集します。下記内容にて入学試験を実施します。

【募集期間】 2023年1月10日(火)～2023年1月27日(金)

【試験日程】 2023年2月11日(土・祝)

【募集分野・定員】

認定看護師教育課程 編入学	定員
手術看護分野 編入学	若干名
腎不全看護分野 編入学	若干名
認知症看護分野 編入学	若干名

認定看護師教育課程 特定行為研修	定員
手術看護分野(術中麻酔管理領域パッケージ)	若干名
腎不全看護分野(透析管理関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連)	若干名
認知症看護分野(神経及び精神症状に係る薬剤投与関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連)	若干名

【受験資格】

〈共通要件〉

- (1)日本国の看護師免許を有する者
- (2)看護師として5年以上の実務研修を有する者(2022年12月末時点見込)
- (3)各看護分野での通算3年以上の看護実績を有すること。
- (4)各看護分野での5例以上の看護実績を有すること。

〈編入学〉

- (1)各看護分野での特定行為研修区別科目を修了していること。
- 〈特定行為研修〉
- ①各看護分野での認定看護師の資格を持つ者
- 募集要項および詳細については、ホームページをご確認ください。

お問い合わせ 昭和大学認定看護師教育センター

メール：showanintei@nr.showa-u.ac.jp

電話：03-3784-8794



総務部

昭和大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年に向けてへの寄付】

同窓／医療法人ケイアイ オホーツク海病院 様（医学部・49回生）

【教育研究協力資金への寄付】

父母／藤村 秀夫 様

【各クラブ・学生会への寄付】

同窓／中鉢 正太郎 様（医学部・73回生）

【校舎建設・運営維持への寄付】

父母／磯崎 奈保子 様

【大学主催行事への寄付】

同窓／内川 友義 様（医学部・59回生）、もろおか整形外科 様（医学部・61回生）

※10月1日～10月31日

附属病院管理課・事務課

昭和大学各附属病院へのご支援の御礼

新型コロナウイルス感染症の治療にあたる医療従事者に対して、多くの皆様から労いのお言葉や心温まるご支援を頂戴しております。お心遣いに深く感謝申し上げます。

現在、本学各附属病院では、医師、看護師の他、多くのスタッフが治療や院内感染防止に丸となって取り組んでおります。今後も私たちは皆様からのご支援を力に変え、引き続き安全・安心な医療の提供に努めてまいります。

皆様からのご支援に対し、重ねて御礼申し上げます。

【ご支援くださった方々】

企業・団体／ファーストビレッジホテル東京有明 様

【ご支援の内容】

寝具類

※順不同 10月8日～11月25日

創立100周年記念事業募金
ご支援のお願い

本学は令和10年（2028年）に創立100周年を迎えます。この大きな節目を迎えるにあたり、教育・研究・診療体制の充実や更なる発展のため、創立100周年記念事業を策定いたしました。

経済情勢の厳しい折ではありますが、本学における重要な役割を担う記念事業の実現へ向け、新時代への道のりを皆様と共に歩みたいと切に願っております。

皆様には本学の取組みに対して、ご理解・ご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ 総務部企画課 企画サポート係

メール：kikaku@ofc.showa-u.ac.jp

電話：03-3784-8387

FAX：03-3784-8012



今号の表紙写真

初夢に「一富士二鷹三茄子」と謳われ、縁起物である富士山。山梨県富士吉田市に1年次の全寮制キャンパスを持つ本学にゆかりの方はその姿に望郷の念を抱くのではないのでしょうか。

卒業生からは「新幹線や飛行機から富士山を見るだけで感激する」というお話も聞かれます。在寮中には自然に見ていた姿も、学修を積み重ね日々研鑽するうちに、より多くの角度からその険しさと美しさが映るようになったのではないのでしょうか。

創立95周年を迎える節目の年に、のびやかに裾野を広げる富士山の雄大な姿に想いを馳せつつ、「SHOWA UNIVERSITY NEWS」も邁進してまいります。

本年もどうぞよろしく願いたします。



SHOWA
UNIVERSITY
NEWS vol. 2



昭和大学
SHOWA University

学校法人 昭和大学 (03) 3784-8000
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8

January 2023
昭和大学新聞 通巻第611号
令和5年1月18日発行
年6回発行

【本誌について】

発行人 小口 勝司

編集 総務課 大学広報係

(03) 3784-8059
press@ofc.showa-u.ac.jp

ご意見やご感想、各種情報をお待ちしています。

制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社



配送停止
住所変更
のご連絡は、
こちらをお願い
いたします。

【各種募金・寄付について】

企画課 (03) 3784-8387

【学事について】

学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)
(0555) 22-4403 (富士吉田)
(045) 985-6503 (横浜)

大学院課 (03) 3784-8793

入学支援課 (03) 3784-8026